

## 紀伊半島，室生火砕流堆積物の古地磁気

### Paleomagnetism of the Muro Pyroclastic Flow Deposit in the Kii Peninsula, southwest Japan

# 三輪 哲生[1], 星 博幸[2]

# Tetsuo Miwa[1], Hiroyuki Hoshi[2]

[1] 愛知教育大・院・地学, [2] 愛知教育大・地学

[1] Graduate School of Educ., Aichi Univ. Educ., [2] Dept. Earth Sci., Aichi Univ. Educ.

<http://ggamma.earth.aichi-edu.ac.jp/~hoshi/>

筆者らは、地質岩石学的な手法で対比が示唆されている紀伊半島の中新世火砕流堆積物について、古地磁気学的な視点からも対比されるかどうかを検証すべく、古地磁気を測定している。本講演では、このプロジェクトの第一歩として取り組んだ室生火砕流堆積物の古地磁気測定結果を報告する。

紀伊半島の北部(三重県, 奈良県, 大阪府)には、室生火砕流堆積物、石仏凝灰岩、古寺凝灰岩、玉手山凝灰岩などの中新世珪長質火砕流堆積物が分布している。これらの火砕流堆積物は、岩相、放射年代、ガラスおよび鉱物化学組成、ガラスの屈折率から対比が示唆されており(横田ほか, 1978; 西田, 1990, 1992; 赤石, 1995; 岩野・檀原, 1999; 尾崎ほか, 2000), 石仏, 古寺, 玉手山凝灰岩は室生火砕流堆積物の縁辺相と考えられている。

筆者らは、地質岩石学的な手法で対比が示唆されているこれらの火砕流堆積物について、古地磁気学的な視点からも対比されるかどうかを検証すべく、上記すべての火砕流堆積物から試料を採取し、古地磁気を測定している。本講演では、このプロジェクトの第一歩として取り組んだ室生火砕流堆積物の古地磁気測定結果を報告する。なお、室生火砕流堆積物の古地磁気研究としては Torii (1983)があるが、筆者らは Torii (1983)の測定地点の2倍以上の約 60 地点から試料を採取し、さらに全測定試料について段階消磁を適用し、きわめて高精度な流平均磁化方位を取得すべく目下測定中である(2001年2月21日)。

本講演では、最新の測定データを提示し、室生火砕流堆積物の磁気的特徴を議論する。